

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成21年10月27日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 首藤 伸夫	日本大学大学院総合科学研究科教授
渡邊 偉夫	元気象研究所地震火山部長、元東京管区気象台長
藤間 功司	防衛大学校システム工学群建設環境工学科教授
越村 俊一	東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター准教授
伊藤 和明	NPO法人防災情報機構会長

の各委員が行い、担当は以下のとおりである。

第1章 チリ地震津波とは何であったのか (首藤伸夫)

第1節 被害津波としてのチリ津波

第2節 被害の大きかった地域と特別措置法

第3節 構造物主体の津波対策

第2章 チリ地震津波の発生から日本到達まで (越村俊一)

第1節 地震の発生機構とマグニチュード

第2節 太平洋上での津波伝播

第3節 数値解析によるチリ地震津波の再現

第3章 日本沿岸でのチリ地震津波 (首藤伸夫)

第1節 はじめに

第2節 津波概況

第3節 津波の周期

第4節 津波の高さ

第5節 外洋に面した沿岸地帯に來襲した津波

第6節 岬周辺の津波

第7節 地峡を越えた津波

第8節 湾内の津波

第9節 海峡や瀬戸での津波

第10節 川での津波

第11節 港湾周辺での津波

第12節 陸上での津波

第13節 おわりに

第4章 津波開始時の人間行動 (首藤伸夫)

第1節 津波開始時の海象

第2節 現象を見ての警告と避難

第3節 岩手県大船渡市の場合

第4節 浜に近づく行動

第5節 漁船の状況

第6節 まとめ

第5章 気象庁の対応（渡邊偉夫）

第1節 はじめに

第2節 1960年チリ地震津波までの津波予報体制

第3節 1960年チリ津波の実況と津波予報（気象庁, 1961）

第4節 遠地津波に対する津波予報の新設と国際的連携（北沢, 1990; 渡辺, 1992; 関田, 2000）

第5節 2008（平成20）年現在の津波予報と将来の問題点

第6章 被害の実態（首藤伸夫）

第1節 はじめに

第2節 人命被害

第3節 家屋被害

第4節 漁船漁具水産施設の被害

第5節 流出漂流物による障害と撤去

第6節 農林業被害

第7節 交通障害

第8節 ライフライン障害

第9節 公共土木構造物の被害

第10節 商工業及びその他

第11節 おわりに

第7章 市町村・県・国の緊急対策（首藤伸夫）

第1節 はじめに

第2節 大船渡市の緊急対応

第3節 県の緊急対応

第4節 国の対応

第5節 おわりに

第8章 構造物主体の津波対策の確立とその後（藤間功司）

第1節 はじめに

第2節 近代的な津波対策の開始—昭和三陸大津波後の対策

第3節 1960年チリ地震津波直前まで

第4節 チリ地震津波対策特別措置法と対策事業の基本方針

第5節 対策例

第6節 総合的津波防災

第7節 ソフト対策充実の時期

第8節 おわりに

第9章 チリ地震津波とその後の対策に関する教訓（首藤伸夫）

第1節 現象としての津波

第2節 津波予報及び津波研究への影響

第3節 人命被害に関する教訓

第4節 都市的生活手段への障害

第5節 二次災害の防止

第6節 家屋の耐浪化と防浪地区

第7節 土地利用規制

第8節 津波対策の効果と影響

第9節 救援体制への教訓

第10節 おわりに

コラム

- コラム1 チリ津波から30年経って（首藤伸夫）
- コラム2 津波災害の種類一覧（首藤伸夫）
- コラム3 被災地ドロと悪徳商法（首藤伸夫）
- コラム4 「世間の掟」と「自然の掟」その1（首藤伸夫）
- コラム5 「世間の掟」と「自然の掟」その2（首藤伸夫）
- コラム6 チリ津波時の聞き誤り（首藤伸夫）
- コラム7 ハワイでの人間行動（首藤伸夫）
- コラム8 遠地津波と火事（首藤伸夫）
- コラム9 人心不安定（首藤伸夫）
- コラム10 津波と物価（首藤伸夫）
- コラム11 津波による疾病（首藤伸夫）
- コラム12 津波数値計算は可能か（首藤伸夫）
- コラム13 津波体験談「水と闘って」（大船渡町 金野公子の体験談）（首藤伸夫）

資料編

参考文献一覧

首藤委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

(事務局) 山崎 速人 内閣府災害予防担当
相澤 竜哉 内閣府災害予防担当

平成22年1月
内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。